

福祉社会学

科目コード	CC2101	担当教員	単位数	履修方法	配当学年
			4単位	R or SR	1年以上



■科目の内容

複雑化した社会構造のなかで暮らす国民の生活福祉問題を分析すると、戦後のわが国における社会構造は大きく変化しており、それにともなって数多くの社会生活のひずみ現象（社会的犯罪、麻薬、アルコール疾患、子供の自殺・老人の自殺、家庭崩壊、援助交際など）が産出されています。2011. 3. 11東日本大震災は、被災地はもとより、わが国の社会をあらためて考えさせる大きな要因となりました。今後、わが国は超高齢・少子化、高度情報化、国際化が進捗して、家族関係や地域社会における生活環境が一層複雑な様相を呈するものと予想されるだけに、今後の社会保障政策や社会福祉政策にも大きく影響を与えることは確かです。それゆえに現代社会が生み出す社会現象をより包括的にとらえながら、「発展社会から成熟社会への変換」を目指した福祉社会を構築していくことが重要かと思われます。

本講義では、こうした国民の生活周期に生起する新たな諸問題に対応すべき社会福祉の援助過程に関わる社会的行為や社会政策などを社会学的な視点から現状分析することによって、今日の生活問題を規定している諸要因やそれらの相互連関を体系的に究明しながら、今後の社会福祉の役割と機能について検証する内容にしたいと考えています。

■到達目標

個人の暮らしと社会構造の変動を社会福祉との関連で捉え、その意義について理解して説明できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 3 社会理論と社会システム（第3版）』
中央法規出版、2014年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	現代社会の理解① 社会システム (第1章第1節)	社会システムとは、社会システムの安定性、社会指標・国民生活指標・新国民生活指標と行政評価、社会階層と社会移動	社会システムの構造分析を行う際に必要とされる概念について押さえましょう。
2	現代社会の理解② 法と社会システム (第1章第2節)	法の疎遠性、法の普遍性、法の不変性、「開かれた法」へ？	現代社会に必要とされる「法」とは何か、考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	現代社会の理解③ 経済と社会システム (第1章第3節)	交換と市場、市場における力の不均衡、 市場の社会性と市場の外部、労働市場 と格差社会、経済の社会的制御	人々および企業の経済行動と社会シ ステムの関係について、用語に意識 しながら把握しましょう。
4	現代社会の理解④ 社会変動 (第1章第4節)	社会変動とは何か、近代化、産業社会 の発展、グローバリゼーション	社会秩序の変化と、その歴史的進 歩・発展の学説に触れましょう。
5	現代社会の理解⑤ 人口からみた社会変動 (第1章第5節)	人口と社会、人口減少の時代へ、人口 転換、少子高齢化のメカニズム、高齢 化する人口構造、人口の地理的分布に おける変化、社会変動・福祉国家・社 会保障費用	社会変動を生じさせる大きな要素の 一つである「人口」のメカニズムに ついて学び、社会問題の背景の理 解や社会の将来像につなげていきま しょう。
6	生活の理解① 生活のとらえ方 (第2章第1節)	生活をめぐる現代的状況、生活をめぐ る様式と人生の推移、生活時間、家計 支出、人間関係、「生活の質」の論理と 方法	「生活」とは何か。様々な視点から それぞれの概念について理解しま しょう。
7	生活の理解② 家族 (第2章第2節)	家族という社会事象、家族の機能、現 代日本の家族変容、福祉国家と家族	生活としての「家族」について、制 度・集団・社会変動・国家などの視 点から理解を深めましょう。
8	生活の理解③ 地域 (第2章第3節)	地域の概念、コミュニティ、地域社会 の集団・組織、都市化と地域社会、農 山漁村地域と過疎化、地域のグローバ ル化とエスニシティ	生活としての「地域」について、 様々な定義を理解しましょう。
9	人と社会の関係① 社会的行為 (第3章第1節)	ミクロ・マクロリンク、社会的行為、 秩序問題、パーソンズ以降の社会的行 為論の展開	人々の行為と社会との関係を意味づ ける社会的行為論の展開について、 理解しましょう。
10	人と社会の関係② 社会的役割 (第3章第2節)	「役割」という言葉、役割研究の系譜、 自己と他者ー自己の形成、交渉として の相互行為ー期待の相補性、役割と地 位との関係、役割集合の理論、役割研 究からみえること	社会学において基本的な概念であ る社会的役割の研究について、自我 の形成を踏まえながら理解しまし ょう。
11	人と社会の関係③ 社会集団と組織 (第3章第3節)	集団の概念、集団の類型、近代組織の 展開、集団的・組織的現実の多様性	多様な集団と組織の概念について理 解を深めながら、社会構造をとらえ ていきましょう。
12	人と社会の関係④ 社会的ジレンマ (第3章第4節)	個人的合理性と社会的合理性の矛盾、 囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会 的ジレンマの定義、ジレンマ解消への 方策、社会的ジレンマを超えて	社会的ジレンマを理解し、社会学的 に応用していくということは、社会 を理解するうえで重要な意味となっ ていることを押さえましょう。
13	人と社会の関係⑤ 社会関係資本と社会的 連帯 (第3章第5節)	近代化と社会的連帯、社会関係資本の 理論、負の社会関係資本と社会的排除	諸個人間のつながりと社会という関 係性、それらがもつ資本の活用につ いて理解を深めましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	社会問題の理解① 社会問題のとらえ方 日本社会と社会問題 (第4章第1・2節)	社会的な産物としての犯罪、社会統制が犯罪と創出する、レットルを操作する人々、社会学と社会問題、「新しい」貧困とは何か?、生きがたさの形、社会からの撤退、親密圏という社会問題、社会問題と福祉	社会問題を把握し、社会学的アプローチから解決するにはどのようにしたらよいか、福祉という視点からも併せて考えることが重要です。
15	社会問題の理解② 共生社会と権利 (第4章第3節)	グローバル化と生活様式の変化、二つの革命と人権意識、人権・生存権・社会権、共生社会の実現に向けて	社会問題を解決するうえで重要な「権利の尊重」を社会の発展と関連づけながら、今後の社会のあり方について考えていきましょう。

■レポート課題

1 単位め	私たちが所属している基礎集団・機能集団について述べ、現代社会の集団に関する特徴を考察しなさい。
2 単位め	現代社会とともに変化してきた「家族形態」と「家族機能の変容」について考察しなさい。
3 単位め	現代社会における「物質」志向から「脱物質」志向への変革と「豊かな社会」との相互関係について考察しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
4 単位め	国民の生活周期に生起する新たな社会病理現象（社会的ひずみ現象）に対して、今後の社会福祉の役割と機能について考察しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

■アドバイス

福祉社会学は、社会現象としての「社会福祉」を全体社会との関連のなかで、社会学的研究方法（社会学的接近）によって体系的に分析しながら、「人間の営み」に関わる社会的行為や生活福祉問題を派生させる諸要因の相互連関を理論的に明らかにすることにあります。とくに、その国の社会と文化によって規定されている社会福祉の構成要素である(1)社会福祉の目的（価値）、(2)社会福祉の対象（要援護者）、(3)社会福祉の主体（援助者）、(4)社会福祉の方法（専門的技術）をふまえながら、学習することが重要です。また、福祉社会学は、人間の社会生活全体に関わることだけに「社会」「文化」「集団」「個人」といったそれぞれのレベルがつねに関連性をもちながら相互作用していることを考えて学習することも大切です。

なお、レポート作成を行う際は、次の基本的な視点をふまえながら、レポートを仕上げてください。

- ・福祉社会学は、客観的・実証的な枠組みに基づいて構成されています。したがって、レポート課題を作成するにあたっては、何を取り上げるかというより、どのように取り上げるかが重要です。その際、「事実・現実はいかにあるか」「いかにあるべきか・いかになすべきか」「それらはどこから」「どこにこうとしているのか」を考察しながらレポートを作成してください。
- ・現代社会において社会福祉がどのような役割と機能をもっているかを家族、地域、職場などの現状を考察しながらレポート課題に取り組んでください。その際、公害、人間疎外など社会生活のひずみ現象を生み出した社会構造を考えることも大切です。

・レポートの作成は、単にテキストを読んで理解した内容をそのまま書くのではなく、レポート課題に関連した生活上でのさまざまな問題点を取り上げながらレポートを作成することが重要です。たとえテキストの記述内容とは異なったレポートの内容であったとしても、そのレポートの内容が十分な分析と考察が行われているものならば、評価もそれだけ高くなります。

1 単位め
アドバイス

テキストをよく読み、社会福祉の領域のなかで社会学が深い関わりがあることを理解し、その上で「社会的存在」として集団に所属しながら日常生活を営んでいる人間社会について理解しながらレポート課題に取り組んでください。基礎集団の例として、血縁に基づいたものに家族、氏族、部族、民族などが考えられ、地縁を契機として成り立つものに村落、都市などが考えられます。基礎集団といわれるものは、人間生活の基礎的な母体になっているからに他なりません。それは結合の性格からみれば、心のよりどころともなるパーソナルな感情的融合性を有しながら、運命的または半運命的な共同生活をしています。基礎集団と対比して考えられる機能集団は、合理的な組織性を有しており、特定の目的のために利害をともなった、いわば人為的・目的的、計画的に作られた集団です。例えば、会社・組合・政党・国家などが機能集団といわれています。こうした集団が時代の変化とともに日常生活を送る現代社会においても変化してきています。歴史的にどのように変化してきたのかを代表的な社会学者であるクーリーやテンニースなどの人物の理論も取り入れながら考察して、簡潔に述べてください。

2 単位め
アドバイス

テキストをよく読んで「家族」について考えてください。とくに、自分自身の家族をふまえながら「家族とは何か」を考えてください。「家族」に関する厳密な用語の規定をすることはきわめて難しいですが、ここでは一応、次のように解しておきましょう。家族とは、夫婦関係を基礎として、親子、兄弟などの近親者がその主要な構成員で、相互に愛情やわれわれ感情によって強く結ばれ、共同の生活を営んでいる第一次的福祉追求の集団です。また、これらの家族としての集団的本質は等質であっても、その構成、形態、機能などは決して一様ではありません。さらに、親子関係も単なる血縁関係のみの関係ではなく、親子としての社会的承認に基づいた関係でもあります。

日本の家族はその時代、地域によって独自の性格をみせていますが、日本の家族を語るとき、その基本的性格の典型としてとらえられるものが近代まで支配してきたイエ制度です。家長のもとに家系、家名、家産の継承、すなわち、家業や家督を受け継ぎ、祖先を祭り、家族が世代をこえて存続繁栄することを重視する制度です。しかし、最近の日本の家族に対する意識も変化し、時代の変遷とともに「家族の形態」や「家族の機能」の変容、さらには家族意識の変化がみられます。

本課題は、こうした視点をふまえながら、「家族とは何か」、「制度としての家族」、「集団としての家族」、「家族の機能」といった特徴を自分で理解しながら、自分で考察し現代日本の家族について簡潔に述べてください。

3 単位め
アドバイス

テキストをよく読んで現代社会がどのように変化してきたかを、人口、産業・職業、階級・階層などの諸要素を考えながら、本課題である「物質」志向から「脱物質」志向への変革と「豊かな社会」との相互関係について考察してください。とくに、この課題では、次の視点をふまえながらレポートを作成してください。

- (1) 1960年代からの高度経済成長にともなって、産業・職業構造の高度化、ホワイトカラーの増加、所得水準の上昇、生活水準の平準化がみられ、国民生活意識のなかには自己の所属している階級を中流階級とみなし、それが「一億総中流意識」として確立されたこと。
- (2) その一方では、「働き蜂」「エコノミックアニマル」「カローシ」という造語が生まれ、生活意識にも陰りがみえてきました。また、社会も産業社会から「脱」産業社会への転換という社会変化がみられたこと。
- (3) その根本的な社会変化が市場的、経済的豊かさだけではなく、生活次元の豊かさが重要な要素として、「モノ」から「こころ」へ、経済から文化へ、成長から成熟へ、産業主導から生活主導へとの傾向が強まったこと。
- (4) その社会的背景には、国民総生産の増大は、必ずしも人々の暮らしや福祉および真の「豊かさ」に貢献したとは限らないことを国民は意識し始め、あらためて、人間性の疎外と対比するかたちで「生活の質」が問われていること。

要するにこの課題は、社会福祉を学ぶにあって、最も根本的な課題でもあり、社会福祉の援助過程を考えるにあたってもとても大切な課題といえるでしょう。いずれにしましても自分自身の身近な生活や暮らしを見詰めなおすことによって、レポートを作成してください。

4 単位め アドバイス

テキストをよく読んで、本課題に取り組んでください。この課題は、これまで学んできた福祉社会学をまとめる意味合いも込めて出されている課題です。とくに、わが国における社会福祉の現状をよく考えながら、社会福祉の諸問題に対する社会的アプローチについて整理するとともに、今後の社会福祉の役割と機能について論述してください。

社会福祉の意味には、狭義的な視点からの社会福祉と広義的な視点からの社会福祉のとらえ方によって、さまざまな意味があります。戦後の社会福祉の歴史は、国民の生活の変化にともなって、「福祉摸索期」、「福祉発展期」、「福祉見直し期」、「福祉転換期」を経て、新たな社会福祉を構築しようとしています。特に、近年では社会福祉基礎構造改革によって、従来の社会福祉制度が見直され、新しい福祉社会のパラダイムが構築されようとしています。これらの社会福祉の動向は、国民の日常生活や社会生活に生起する社会問題に対応するために展開されてきた社会福祉の歴史ともいえます。しかし、本課題では、単に社会福祉の歴史の変遷を論じるだけではなく、社会を構成する個人や集団といったさまざまな構成要素をふまえながら、レポートを作成することが大切です。

テキストにも記述されているように、「社会福祉は、さまざまな生活場面における諸問題に直面する人々を対象としてその解決のために、人権の尊重と生活の質を高めるように制度的・社会的資源を動員する。社会学の社会福祉に対する関係は、社会福祉の諸問題を制度や組織の次元だけではなく社会を成立させる個人の行動や規範を分析することで、福祉問題の総合的な解決視点を提供する。」と述べられています。まさに本課題は、社会的な視点から社会現象として社会福祉をいかに理解し、生活問題を規定している諸要因やそれらを相互連関について考えながら、今後の社会福祉の役割と機能について論じることが重要となります。

受講生の皆さんは、テキストを読んで十分に理解を深めるとともに、自分なりの社会福祉観について考えて、レポートを作成してください。

■科目修了試験 評価基準

1. 出題問題をきちんと理解しているか。
2. 現代社会に生起する社会問題の背景がきちんと整理されているか。
3. 重要な社会学用語や概念を用いながら適切に答えているか。
4. 論述の分量も評価対象となる（文脈も大切にしてください）。

■参考図書

笹谷春美・吉崎用祥司・藤井史朗・小内透編著『変動期の社会学』中央法規出版、1992年

武川正吾著『福祉社会』有斐閣、2001年

佐藤慶幸著『現代社会学講義』有斐閣、1999年

京極高宣著『現代福祉学の構図』中央法規出版、1990年